

## 第 2 回中原区区民会議課題調査部会会議録

- 1 開催日時 平成 24 年 12 月 7 日 (金) 午前 9 時 30 分～午前 11 時 50 分
- 2 開催場所 中原区役所 5 階 505 会議室
- 3 出席者  
委員 板倉部会長、岡本副部会長、青木委員、伊藤委員、但野委員、塚本委員、中森委員、橋本貞子委員、橋本満昭委員  
事務局 小野副区長  
企画課 川添課長、園田担当係長、倉見担当係長、橋本職員、深谷職員、野並職員  
危機管理担当 市川職員  
石塚計画デザイン事務所 千葉さん、牟禮さん
- 4 議題  
(1) 会議録確認委員の選任 (公開)  
(2) 審議テーマ「絆を深めて支え合う防災体制づくり」に関する調査検討について (公開)
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容  
(1) 会議録確認委員の選任  
伊藤委員を選任した。  
(2) 審議テーマ「絆を深めて支え合う防災体制づくり」に関する調査検討について  
事務局 資料 1「第 1 回課題調査部会での提案への対応案」、資料 2「企画シート」を説明  
塚本委員 区民会議としては、地域ごとに防災イベントをやりましょうと促すことにするのか、もしくは区民会議が主体的にイベントを実行することになるのか。  
事務局 そこも部会内で議論する必要がある。  
板倉部会長 中学生に対する災害図上訓練 (以下「DIG」) はしっかり行われているようである。そこで、小学生を対象として、何かやらなければいけないのではないかと思う。災害が起こったとき子どもがどうすればよいのかを検討する必要がある。また、青木委員が提案した子育て講演会も検討を深める必要があるのではないか。  
  
橋本満昭委員 東日本大震災をきっかけに備蓄をする家庭は増えた。だが、有効期限が切れたものをそのままにする事例もよくあると聞いている。そこで、携帯用カードに備蓄品の有効期限も記録するのが良いのではないかと思い、提案した。必ずしも新しいものをつくる必要はないので、既存のリーフレット等にこうしたアイデアを入れてもらいたいと考えている。  
  
但野委員 前回の本会議で防災資器材を使ってみる訓練をしている事例を聞いた。そこで、実際にどこに何があるかと情報はほとんど区民は知らないと思う。例えば、平和公園のベンチがホース入れになっていると聞いている。身近にこういう工夫が多くなされていることを区民に知ってもらうために、地域の防災施設等の紹介マップを作

るという提案をした。

事務局 参考資料1の防災マップとは違うものになるのか。

但野委員 楽しく子どもたちに学んでもらうためには、給水拠点等の案内だけではなく、より身近な場所にあるものを知ってもらう取組をしてもよいのかなと思う。

事務局 地域に備えられている機材等は、区民の方が自由に使えないものも多い。そこで、マップで紹介するというよりは、実は地域にこういうものがあるという紹介をコラムのような形でしていくという手法でもよいのか。

但野委員 良いと思う。

青木委員 子育て支援組織「MAMA-PLUG」の代表で多摩区在住のロー紀子さんは東日本大震災発災時の体験談を集めた「子連れ防災手帖」を発刊した。この方に子育て講演会をお願いした。同様の取組を行っても良いのではないか。

事務局 実施する場合、担い手はどこになるのか。

青木委員 区民会議でもよいし、子育て支援実行委員会でも実施できると思う。

事務局 防災イベントにおけるDIGに関して言うと、どのくらいのエリアを対象とするか検討する必要がある。

板倉部会長 中原区全体を対象とするのは広すぎるだろう。町内会組織がしっかりしている地域、例えば、小杉御殿町や井田三舞町などと新しい地域である小杉駅周辺の2つが候補になるのではないか。

塚本委員 マンションとその周辺地域が訓練をするのであれば、区民が自主的にできるのではないか。行政が関わるのであれば、行政機関や商業施設が集積している駅周辺がどうなるかをシミュレーションした訓練の方が、一自主防ではできない取組なので、やってみたいと思う。

岡本副会長 災害時に一番活躍するのは、中学生ではないか。よって、中学生に一番災害時の対応力を身に付けてもらいたい。そこで、私は中学校の学校区で実施してもらいたい。

事務局 参考資料4「住吉中学校災害図上訓練(DIG)報告」を説明

伊藤委員 中学生がこういうことをしているのを知って、安心した。是非、続けていってもらいたい。

青木委員 中原中学校では、中学1年生を対象に毎年実施している。私の町会では中学校に災害時の後方支援をお願いしている。

この図上訓練を出発点として、災害時にどうすればよいかを考えていってもらいたい。

橋本満昭委員 非常によい訓練である。中学校だけでなく、地域の町内会・自治会が加わることにより、非常によくなってくると思う。地域の防災訓練にも中学生が加わるようになれば、さらに良いだろう。

中森委員 子どもたちだけではなく、学校の先生やP T Aの力も借りて訓練を行うと良いのではないか。

但野委員 各中学校区には地域教育会議があり、そこには中学校区内の小学校の校長先生なども集まった組織がある。ただ、イベントの実施となると、今の中学生は本当に忙しくて、地域教育会議が実施するイベントでも中学生はなかなか参加しない。

今現在、中学校の授業でD I Gを実施しているのであれば、この授業の前後の時間を使って、地域と連携できる取組を提案していけばよいのではないか。

事務局 では、今提案されている防災イベントとは切り離して、中学生に対する取組を考えていく。

中森委員 学校で地域を知るといふ勉強をしていると聞いている。そうしたカリキュラムの中へ防災の要素を取り入れてもらうのはどうか。区の校長会で依頼できるのではないか。

岡本副会長 青木委員が住んでいる地域では、防災訓練に中学校が参加している。こうした取組を他の地域へも広げていくのが理想である。

青木委員 12月2日にも4町会で防災訓練を行ったが、中学生90名が参加してくれた。私たちの地域では、日枝神社の1200年祭を契機に中学校とつながりができてから、防災訓練にも積極的に参加してくれている。校長先生次第ということもあるが。

岡本副会長 学校はガードが固くて、入りこむのが大変である。私の住む地域でも少しずつつながりを持つようにしている。

青木委員 最近では学校も地域とつながりを持つようにしているようだ。

但野委員 中学校でも地域とつながる必要は感じているのだろう。中原中の伊藤校長は特に熱心である。地域の防災訓練に中学生が90名も来るのは、かなり画期的なことである。子どもたち自身にも知りたいという気持ちはあるのだろう。是非、そういう事例を校長会などの場も使って広めていってもらいたい。

事務局 先ほど、小学生を対象にという意見もあったが。

塚本委員 再開発エリアで住んでいる人たちで言えば、多いのは未就学児から小学生であり、親は共働きである。そういう人たちを対象にしてもよいのであろう。

事務局 D I Gではどの程度のエリア分けで実施すればよいか。28か所の避難所ごとという意見もあったが。

塚本委員 再開発地区の場合、どのマンションかによって避難所が3つに分かれる。また、子どもの多くが私立に通っており、避難所となっている公立学校にはそもそも馴染みがない。また、マンションの場合は、避難所に逃げるのではなくて、マンションに留まるための訓練をしている。

事務局 28か所を対象にするのは、物理的に厳しいこともあるので、例えば小杉駅周辺を候補の一つとし、それ以外に高齢者が多い地域の計2つとするか、さらに数か所増やしていく程度が現実的ではないか。

イベントやっただとしても、人が集まらないとなると意味がなくなる。いつごろ実施し、どのように人を集めればよいだろうか。



塚本委員 再開発地区で言えば、マンションへのチラシの全戸配布などで、それほど難しくなく人を集めることができる。

むしろ、来年度は8月31日に中原区で総合防災訓練があると聞いているので、その前に実施することで、区民の関心を総合防災訓練へつなげられるのではないかと。  
事務局 区民会議発の防災イベントを総合防災訓練のプレイベントのように実施するのはよいかもしれない。

但野委員 総合防災訓練はどのように実施するのか。

事務局 警察や消防などと連携した情報伝達訓練が中心になる。それとは別に、避難所開設訓練や遺体安置所設置訓練を実施するものである。地域の御協力をいただくものもある。

但野委員 場所はどこになるのか。

事務局 前回中原区で実施した際は、等々力緑地と宮内中学校であった。

事務局 但野委員からは講座についても御提案いただいているが。

但野委員 私の中では、「防災イベント」というと講座のようなものを想定した。DIGはむしろ自主防災組織の関係者が行ったのほうが良いのではないかと思う。講座やDIGなどを同じ日に行うのは難しいだろう。

橋本満昭委員 あまり多くのものを詰め込んで、4、5時間もかかるイベントよりは、2、3時間くらいのもの方が、よいのではないかと。あまり長いと参加者が限られてしまう。

事務局 委員皆さんの中では、DIGは実施した方が良いという考えか。

橋本貞子委員 ここまでの議論では、もう既に決まっているかのような取扱いになっている。もう少し、委員皆さんの意向を確認した方がよいのではないかと。私はDIGの実施に反対はない。ただし、橋本満昭委員の発言のとおり、あまり1日のイベントに色々詰め込むのはやめておいたほうがよいのではないかと。参加者も限られてしまう。

防災への取組は1回限りで終わるものではないので、もし、多くの企画を立てるのであれば、日を分けて実施した方がよいだろう。

事務局 では、一日にあまり多くのイベントを詰め込むことは良くないとの意見で理解した。講座を開催するとしても、別で考えることにしよう。

今日の審議内容を確認させていただきたい。まず、防災イベントは長時間にならないように開催することとし、DIGを実施する場合は代表的な2エリアを選定し、訓練する。中学生の取扱いと講演会については、防災イベントとは切り離して、検討していく。防災イベントの開催時期については、総合防災訓練の前、8月頃とする。

事務局 岡本副部長と橋本委員からは、事例紹介について提案いただいているが、具体的にはどういうものか。

岡本副部長 東日本大震災の経験など、全国的に参考になる事例も多いので、これらを学ぶ取組も必要ではないかと思っている。

橋本貞子委員 私は、先日の区民会議の井田協友会の事例が他の町会でも当たり前のように行わ

れているかと思ったら、実態を確認したところそうではないとわかった。そこで、自主防災組織を担っている方達にもっと意識を変えてもらう必要がある。

但野委員 町会で防災に関する活動をしている方に、事例を紹介することで、気づきが生まれるかもしれない。

青木委員 防災訓練を行っていない町会もある。まず、中学校区レベルで防災訓練をやることから始めるべきであろう。

橋本貞子委員 区民会議には、中原区自主防災組織連絡協議会所属の委員もいらっしゃるの、意見を伺いながら、自主防に関する取組事項を決めていけばよいのではないかと。

事務局 資料1についても、意見をいただきたい。

塚本委員 100戸以上のマンションに対する自主防結成の意向調査は是非やっていただきたい。

中森委員 「そなえる かわさき」の配布は外国人市民だけではなく、日本人にも必要である。

橋本満昭委員 災害用の携帯カードについては、新しいものを作るのではなく、今まであるものに情報を追加するようにするべきであろう。

板倉部会長 だいぶ時間を超過してしまい申し訳ない。それだけ、この防災については、課題も多く、皆様も意見が尽きないこととは思うが、課題調査部会としては、以上のような結論を得たこととし、課題調査部会としての結論を運営部会、本会議へ報告することになるが、報告文の詳細については、部会長に一任していただきたいが、よいか。

(一同了承)

板倉部会長 では、本日の部会は以上で終了する。

以上